

# 統計ニュース

〈報道各紙掲載記事より抜粋〉

## 《国内・国際》

### 9/2 今夏は113年間で最高の酷暑

日本の今夏（6～8月）の平均気温は、平年（1971～2000年の平均）を1.64度上回り、統計を開始した1898（明治31）年以降、最も高かったことが1日、気象庁の解析で分かった。これまでの統計史上最高は、1994年夏のプラス1.36度。

### 9/3 09年の出生率 1.37で確定

厚生労働省は2日、2009年の人口動態統計（確定数）を発表した。1人の女性が生涯に産む子供の数に近い推計値である「合計特殊出生率」は、前年と同じ1.37で確定した。05年に過去最低の1.26を記録して以降、3年連続で上昇が続いていたが、横ばいとなった形だ。出生数から死亡数を引いた人口の自然増減数はマイナス7万1830人で、過去最大のマイナス幅となった。

### 9/14 夏山の遭難過去最悪

警察庁の集計では、7、8月に全国の山で起きた遭難事故は昨年より121件増の530件、遭難者数は107人増の611人で、いずれも記録の残る1968年以降最多だった。

救助に動員された人員は延べ7479人、ヘリコプター出動回数は420回で、ともに記録のある2004年以降最多。死者・行方不明者は77人で08年に次いで過去2番目に多い。

中高年の登山熱を反映し、40歳以上の遭難者が469人と全体の76.8%を占めたが、若者の年代でも遭難は増えている。

### 9/20 65歳以上最多23.1% 80歳以上800万人超す

「敬老の日」にちなみ、総務省は19日、高齢者の推計人口を発表した。65歳以上は2944万人で、総人口に占める割合は23.1%となり、人口、割合とも過去最高となった。このうち80歳以上の人口は826万人。前年より38万人増え、初めて800万人を越えた。

### 9/22 基準地価 全都道府県 前年割れ

国土交通省は21日、2010年7月1日時点の都道府県地価（基準地価）を発表、全国2万1786地点の98.5%が昨年より下がった。世界同時不況の直撃を受けた前年の98.8%に次ぐ全面的な下落で、2年続けて全都道府県の住宅、商業地が前年割れとなった。全国平均では住宅地が19年連続、商業地が3年連続のマイナス。ただ三大都市圏は昨年より下げ幅が半減した。国交省は「三大都市圏ではマンション用地の需要増などで下げ止まりの兆しがみられるが、地方圏では人口減や中心市街地衰退の影響が大きい」としている。

### 9/23 小児・産婦人科 病院数最低

厚生労働省は22日、2009年の「医療施設調査・病院報告」の概況を発表した。09年10月現在、小児科を設置している病院は2853施設、産婦人科・産科は1474施設で、ともに1990年以降で最低となった。仕事の厳しさや訴訟リスクの高さが指摘される小児科や産婦人科・産科の減少傾向に歯止めが掛かっていない実情が改めて浮き彫りになった。

## 《県内》

### 9/7 県内100歳超長寿1118人に増える

山口県は6日、本年度の県内の100歳以上高齢者の状況（1日現在）を発表した。本年度100歳以上になる高齢者は1118人（男性110人、女性1008人）で、前年と比べ128人の増加。5年連続で過去最多を更新した。

県長寿社会課によると、本年度中に満100歳を迎えるのは412人（男性47人、女性365人）で前年比38人増。15日（老人の日）時点の満100歳以上は821人（男性75人、女性746人）で同78人増となり、市町別では、下関140人、山口110人、岩国95人、周南85人、宇部78人の順に多かった。

### 9/7 下水道処理人口普及率 山口県微増58.8%

中国地方整備局がまとめた中国地方2009年度末現在の下水道整備状況によると、全人口に対し下水道が使える環境にある人の割合を示す山口県の「下水道処理人口普及率」は58.8%で前年度と比べ1.1ポイント上昇したが、中国地方の平均60.8%（前年度比1.3ポイント上昇）を2.0ポイント下回った。全国平均の73.7%と比べ14.9ポイント下回っている。

同局によると、農業集落排水や合併浄化槽などを含めた山口県の「汚水処理普及率」は79.0%。県内は下水道に代わって農業集落排水や合併浄化槽などを整備する中山間地域が多いため、下水道に限定した「下水道処理人口普及率」が都市部より低い傾向にあるという。